

# 徹底チェック



**Q** 市長の施政方針の中で、重点施策にワンストップサービス導入が上がっているが、そのための職員研修費はどう考えているのか。

**A** ワンストップサービスの導入経費については計上しているが、研修費は当初予算には盛り込んでいない。内部研修などを実施しながら進めていきたい。



**Q** ワンストップサービス導入のための職員研修費は

**A** 23年度当初予算には盛り込んでいない

平成23年度朝倉市一般会計予算については、3月定例会で議長を除く21人の議員で構成される予算審査特別委員会を設置し、3日間の日程で審査し、原案のとおり可決しました。

その中で取り上げられたいくつかの質疑・応答を要約して紹介します。

**Q** 緊急通報システムの設置基準の見直しはできないのか

**A** 十分対応できていると考えている

**Q** 緊急通報システムでの出動件数は、また、この設置基準が厳しいと聞いているが、見直す考えはないのか。

**A** 近年の実績としては消防署の出動は年に数件である。現在20人ほどの利用申し込みがあっているが、23年度も26台購入予定であるため、十分に対応できている。



**Q** 従来どおり小学生までのインフルエンザ予防接種の全額助成を

**A** 市長の政策のあり方としてご理解いただきたい

**Q** 予防接種の助成事業は、今回中学生までに対象を引きあげて1,000円の自己負担をいただくようだが、対象者数は。

**A** 23年度の対象者は小学生までが5,647人、中学生が1,757人である。接種率を両方とも80%を見込んでいる。

**Q** 今まで無料だった小学生までは、年2回の接種で2,000円の負担になると接種率が下がることが懸念される。予防は結果として医療費がかからなくなると考えるが、そのあたりの見解は。

**A** 中学生までに1回につき1,000円負担をいただくことで、1,000万円の負担金が削減されるため、その財源を小学生の入院費に助成するようにしている。予防接種は任意の接種であり、少しの負担をいただいて多くの子どもが予防接種を受けられることも大事であると考えている。また、県内の動向を見ると、助成している自治体は4市町村で、1自治体は全額助成だが、残りの自治体も1,000円の自己負担をとっている。本市の状況が遅れているとは考えていない。



**Q** 今までどおり小学生までの全額助成はできないのか。

**A** 市の限られた財源をどう活用するか検討した上での政策であり、市長としての政策のあり方としてご理解いただきたい。

**Q** 秋月郷土館の建設費が1億円ほど計上されているが、年次計画は。

**A** 平成22年度に基本計画を作成する予定だったが用地取得に時間を要し、23年度に予算を繰り越す。23年度は設計期間。24年度は工事期間。25年11月オープン計画である。



**Q** 秋月郷土館の建設事業の年次計画は

**A** 平成25年11月オープンを計画予定

# 予算を

**Q** 税収が今回大きく伸びている要因は

**A** 国も所得税が伸びており、見込みは過大ではないと考えている

**Q** 国の23年度地方財政計画の中で、地方税の伸び率を2.8%としており、市では4.5%としている。前年と比較すると21年度から22年度で5億1,000万円ほどマイナス、23年度は3億円のプラスで、差し引き8億円以上の税収の伸びとなっている。それだけ景気回復しているのか肌で感じないが考え方の説明を。

**A** 市内企業の状況は、現状維持から伸びが生じているため、その分を23年度の予算に計上した。

国も所得税が伸びているため、地方交付税も増え、追加の交付金等がきている。地方公共団体にとってはいい傾向で、税収の見込みは過大でないと考えている。

**Q** 朝農跡地について具体的活用計画がないままに取得する必要はあるのか

**A** 取得後に少しでも早く策定したい、そういう覚悟で望む

**Q** 朝倉農業学校跡地の一体的活用の具体策はあるのか。また23年度に購入する必要性についての見解は。

**A** 朝農跡地は県有地と校友会用地が入り組んでいるので、県有地を取得して一体的に活用したい。具体策は庁内検討委員会を中心に卒業生の想いを大切にしながら検討していく。

**Q** 朝農跡地を具体的活用策がないまま取得することを非常に懸念している。活用計画策定のスケジュールもない。取得についての市長の見解は。

**A** 今回、県との協議も整ったので予算を提案させていただいている。活用計画の策定にあたっては、どういった手順で行うか庁内検討委員会を中心に検討させる。

**Q** 朝農跡地を市民のためになるものにとり上げるためにも、市長の決意を伺う。

**A** 23年度内に活用計画を策定したいという気持ちを持っているし、そういう覚悟で望んで少しでも早く実現したい。



**Q** 小中一貫教育検討のスケジュールは

**A** 23年度に地域と意見交換を行い検討する

**Q** 小中一貫教育検討事業については、いつから検討を始め、いつごろまでに結論を出すのか。

**A** 市としては、推進するのではなく検討をしていく考えである。どの中学校区に検討してもらうか選定し、地域の意見を尊重するとともに、23年度に意見交換を行い、一定の方向性をまとめて対応策を検討していきたい。

小中一貫教育ありきではなく、調査研究からという段階である。



当初予算に対して2つの修正案が提出されるが、賛成少数でも可否決

委員会において、朝農跡地の県有地購入費を予備費にまわす修正案と、小学生のインフルエンザ予防接種助成において、従来通り全額無料の助成を行う修正案が提出されました。

討論・採決の結果、ともに否決され、賛成多数で当初予算原案を可決し、閉会しました。その賛否意見を一部紹介いたします。

## 修正案 賛成意見

① 朝農跡地については、今県有地を買い急ぐ理由がはつきり分らない。購入した場合は大きな経費が必要であり、購入後何も使わなければ維持管理費がかかってくるため賛成する。

② 朝農跡地取得後の活用計画や年次計画がないまま、県有地を取得することについて非常に懸念する。ある程度の方向性が出てから取得するべきであり賛成する。

③ 小学生におけるインフ

ルエンザの予防接種無料化については、市長の答弁でも無料化に取り組み期待が得られなかったため、この修正案に賛成する。

## 修正案 反対意見

① 跡地購入の予算を予備費にまわすと県から購入する時に予算がないことになる。もし購入しないなら、予算を留保することも出来るので修正案に反対する。

② 朝農跡地については早急に方向性を決め、市民に活用策を示す段階に来ている。市長にはリーダーシップを発揮してもらい、23年度中に大きく前進することを期待して反対する。

③ インフルエンザ予防接種無料化については、行政は継続性が必要であると考え。その財源を予備費から充当すると1年限りの政策になる。財源の検討が必要であり、補正予算でも対応できるように反対する。